

第1回 15年10月30日(金)




株式会社 板橋 寛泰氏  
取締役 板橋 寛泰氏

泊まり込みの秘話を披露

我孫子市立湖北小学校  
6年生57人(2クラス)

2011年の東日本大震災において、同市布佐地区で発生した液状化被害の際、道路復旧や倒壊家屋の解体に従事したことに「何よりも早く道路が使えるようになるため、2週間から1か月程度車内に泊まり込みで復旧作業を行った」。地元を守る建設業者として「将来、建設業に就く人がこの中から出ると嬉しい」

第2回 15年11月6日(金)



株式会社 船越 博文氏  
代表取締役 船越 博文氏

授業で学んだ知識の活用を

八千代市立大和田西小学校  
4年生159人(4クラス)

授業の中で取り上げた土木工事の現場について「学校の近くにある村上橋で、護岸工事の様子を見ることができる。近くを通ることがあったなら、よく見てください。新しい知識を得たみなさんなら、いつもとは違った見え方になると思う」。さらに「何か質問があれば、先生を通して手紙を書いてください。手紙でお答えします」

第3回 15年11月9日(月)



株式会社 湯浅 健司氏  
代表取締役 湯浅 健司氏

逆川から坂川へ地域の歴史

松戸市立馬橋北小学校  
6年生110人

小学校のそばを流れる『坂川』について「雨が降ると逆流して洪水を起こすという歴史から、江戸時代には『逆川』と呼ばれていた。工事により正しい流れにしたため、『坂道のように正しく流れる』という意味で『坂川』と呼ぶようになった」。さらに「水屋」という水害時の避難場所にも触れ「このような地元の歴史を覚えておいて欲しい」

第4回 15年11月13日(金)




東邦建設株式会社 根本 隆彦氏  
工事長 根本 隆彦氏

現場では女性も大活躍

四街道市立四街道中学校  
1年生30~40人、2回(選択制)

自社が行う工事現場について「今の建設業は男性ばかりでなく、女性も進出しやすいように国が政策を行い、活躍の場を広げている」。さらに「是非、ものづくりに興味のある人は将来の職業選択の一つとして、建設業に目を向けてもらえたら嬉しい」

第5回 15年11月16日(水)



株式会社 伊藤 大介氏  
代表取締役 伊藤 大介氏

みんなでライオン見に来て

千葉市立土気小学校  
4年生54人(2クラス)

自社が手掛ける千葉市動物公園の工事の様子を映像で紹介し、工事現場の内容を説明。「現在ライオンが住む場所を作っている。来年の春に完成するので、是非見に来てください」。さらに「建設業は身の回りである多くのものを作る仕事。自分が作ったものを誰かが使ってくれるのは幸せなこと。これからも皆さんが安心して使えるようなものを作っていく」

2015年度CCIちば出張授業/総集編

# 「建設業の魅力」アピール

ゲスト講師が児童生徒にメッセージ

千葉県魅力ある建設事業推進協議会(CCIちば、内海秀幸会長)の県内小中学校における「2015年度出張授業」が修了。昨年10月30日の我孫子市立湖北小学校(6年生2クラス、57人)を皮切りに、今年1月20日の柏市立手賀西小学校(4年生38人、1クラス)まで14校、合わせて約1220人(昨年度は7校、702人)の児童と生徒が受講した。それぞれ地域の建設業関係者をリソースパーソンとして迎えた「ゲスト講師」は12人。いずれもCCIちばの会員で、(一社)千葉県建設業協会の会員企業が務め、如何に建設業が暮らしの中に密着しているのかを通じて、子どもたちに大きな夢と希望を与える素材を提供。今回は、授業の最後にゲスト講師が自らの言葉で語った「建設業の魅力」や「メッセージ」をまとめた。

第6回 15年11月17日(火)



鈴木土建株式会社 内山 弘通氏  
代表取締役 内山 弘通氏

道路や鉄道は人間の血管

東金市立福岡小学校  
6年生29人

「道路や鉄道は人間に例えると『血管』にあたる。人間の身体には動脈や静脈、毛細血管などが沢山ある。社会の中でも道路や鉄道などを整備することは『血の巡りを良くする』ことになる。それに加えて学校などの公共施設、上下水道などの社会資本を整備し、その地域の人たちの暮らしを良くするのが建設業である」

第7回 15年11月21日(土)



株式会社 尾頭 博行氏  
代表取締役 尾頭 博行氏

24時間体制で復旧活動

浦安市立日の出小学校  
4年生87人

東日本大震災において液状化被害に見舞われた当時の浦安市内と、その復旧工事について「その時に私たち地元の建設会社は、みなさんが一日も早く普通の生活に戻れるように、自ら率先して24時間体制で復旧活動にあたった」。さらに「こういった建設業の仕事に興味を持ち、将来『自分も建設業で働いてみたい』と思う人が増えてくれると嬉しい」

第8回 15年11月24日(火)



入吉田工業株式会社 吉田 孝幸氏  
代表取締役 吉田 孝幸氏

生活支える土木の仕事

柏市立風早北部小学校6年生  
118人(4クラス)

「道路や下水道など、生活に密着したものから、ダムやトンネルなどの大きなプロジェクトまで多種多様なのが土木。みなさんの目に見えないところで、生活の役に立っている。さらに「将来、色々な職業があると思うが、建設業というものがどういものであるかを頭に入れて、職業選択の1つにしてもらいたい」

第9回 15年11月30日(月)



株式会社 高橋 順一氏  
代表取締役 高橋 順一氏

地域の人の喜び知る

流山市立長崎小学校  
4年生90人(3クラス)

「あと2年でみなさんは小学校を卒業し、中学校、高校に進んでさらに大学に進む人、あるいは高校を卒業して仕事に就く人も出てくる。どんな仕事も楽しんで取り組んでほしいと思う。一方で「私は元々違う仕事をしていてこの建設業に入ったが、今ではものをつくるという仕事が『誇り』に思える」

第10回 16年1月13日(水)



株式会社 青木 孝行氏  
代表取締役 青木 孝行氏

地域の安全を守る建設業

木更津市立畑沢小学校  
6年生136人(5クラス)

「今日みたいに寒い日には道路が凍ってしまうため、私たちは朝5時頃から、道路が凍らないように塩化カルシウムを撒きに行く。地域の安全を守るのも建設業の仕事の一つ」。さらに「建設業というのは、みなさんが考えるような物を作るばかりではなく、安全・安心のために、縁の下の力持ちのような仕事もしている」

第11回 16年1月14日(木)



立山工業株式会社 朝倉 猛氏  
取締役副社長 朝倉 猛氏

当たり前を支える仕事

千葉市立弥生小学校  
4年生14人

「蛇口をひねったら水が出るのはすごいことだと思いませんか? 当たり前だと思いますか? どちらも正解。みなさんが当たり前のように生活できるようにするのが私たちの仕事。今回の授業を通して、建設業をもっと身近に感じてほしい。大人になって建設業に興味を持つことがあれば、是非私たちの仲間になってください」

第12回 16年1月18日(月)



櫻工管株式会社 平山 知太氏  
代表取締役 平山 知太氏

二重川の氾濫防ぐ貯留管

船橋市立三咲小学校  
4年生134人(4クラス)

「私の会社でも昨年の3月から8月にかけて、この三咲小の校庭に550t規模の貯留浸透施設を造りました。それから、地震の時に建物が倒れないように、校舎の耐震補強工事(施工=京葉都市開発)も行いました。私たち建設業は『みなさんの安全、生活を守る』ことと『環境にやさしい仕事である』ということを今日は勉強しました」

第13回 16年1月20日(水)



株式会社 湯浅 健司氏  
代表取締役 湯浅 健司氏

復旧の最初に現場に入る

松戸市立牧野原小学校6年生  
115人(3クラス)

東日本大震災での建設業の活躍について「自衛隊や消防隊が救助や災害復旧を行うために、まずはじめに現場に入る道を作ったり、がれきを撤去したのは建設業の私たち。建設業はみなさんの生活になくてはならない仕事です。この中から、建設業に携わる人が一人でも出てくれたらうれしい」

第14回 16年1月20日(水)



入吉田工業株式会社 吉田 孝幸氏  
代表取締役 吉田 孝幸氏

将来の職業選択の一つに

柏市立手賀西小学校  
4年生38人(1クラス)

震災や豪雨などの災害復旧での建設業の役割について「災害時に自衛隊や消防のみならずが働けるように、道を整備したり災害が起きた時に一番最初に活動するのが地元の建設業」。このように多岐にわたって私たち建設業者は、みなさんの生活に携わっている。将来の職業選択の一つとしてもらえたら嬉しい」